

社会

出題の傾向

今年度の特徴は、歴史は非常に正答率が高く、地理・公民は非常に正答率が低いことです。

2018 今年度の出題と解説

50点満点（歴史20点・地理20点・公民10点）

①は歴史の問題で、時代の特徴を述べた文をもとに問題が出題されています。全体的によくできていました。そのなかでも問2・6・8のように文を選ぶ問題はやや苦戦している受験生がいました。問10の「ザビエル」はほぼ100パーセントの正答率でした。出題者が、苦戦するかなと思っていた東京の史跡を写真から選ぶ問題も、よくできていました。すべて教科書に載っている写真を出題したからかもしれません。問14は八幡製鉄所と勘違いした受験生が多かったようです。問15は唯一正答率が30パーセントくらいの問題でした。近現代史がやや苦手なうえに、細かい年代を出題したからだと思います。しっかり基本的な問題はとりこぼさないようにしましょう。また、教科書にでてくる人名などはしっかり漢字で書けるようにして下さい。ひらがなは減点の対象としますし、2次試験では、漢字で答える問題も出題しています。

②は地理の問題で、4つの政令指定都市の特徴を述べた文をリード文にし、例年と同じようにグラフや表・地図を見て答える問題が多く、受験生は苦戦したようです。まず4つの政令指定都市が、Aは浜松市、Bは福岡市、Cは岡山市、Dが札幌市とわからないと解けない問題も多く、それが正答率の低さにつながったと思います。問1や問11の正答率の低さもそのせいです。問10がヒン

トの問題となっていますので、それに気づいてくれればと思いましたが。問2は、浜松市であるとわかればウナギが出てくると思うのですが、グラフに惑わされたかもしれません。問3は話題となっていたので正答率は高く、問5は特徴のある都道府県の地図から出題したのですが、意外と正答率は低かったです。

③は公民の問題で、昨年におこった出来事から出題しています。半分は基本問題、半分は時事に絡む問題です。基本問題は、正答率もよかったです。しかし、時事問題対策が少しできていなかったようで、全体的な公民の正答率は低かったです。問1は、国際連盟と混同している受験生が多かったようです。問2・3の正答率は高かったです。問5・6のパリ協定と経済連携協定の略称を聞く問題は、受験生は苦戦していました。公民受験対策としては、基本問題を取りこぼしなく、ここ半年までに起こった主な出来事を整理しておく必要があると思います。

対策と アドバイス

教科書に載っている語句や出来事を中心に問題を出しています。学校の授業の重要性をよく考え、教科書を中心とした基本的事項を理解しておくことが大切です。そして、資料や地図を使って自ら調べるといった自発的な学習を心がけてください。さらに、新聞やテレビなど、現在話題となっている出来事や時事に関する事から関心を持つようにしてください。また、例年繰り返して述べていることですが、基本的な用語・地名・人物名などは漢字で正確に書けるようにしてください。